

一般演題22題は、それぞれアウトカムが得られており、討論も活発でありました。看護補助者や医療クラークの発表が有り印象的でした。特別講演



会場風景

の日本海総合病院院長の栗谷義樹先生は、県立と市立の病院統合、独法化というダイナミックな過程をつぶさに報告するとともに、経済効率を上げるだけでなく、職員のモチベーションマネジメントを如何に行ってきたかを熱く語り、感銘を与えました。パネルディスカッションは、『DPC』を取り上げ、6施設からの現状報告と、医療の標準化と質向上に向けた展望の報告があり有意義でした。またランチョンセミナーは『緩和』をテーマとし、立場が違った5名から発表があり、現状を俯瞰出来ました。その中で介護施設での看取りの取り組みの話が、特に新鮮でありました。

最期に多大なご支援を賜りました各位に、心より御礼申し上げます。

第10回北海道支部学術集会

学術集会会長：市立旭川病院副院長 子野日 政昭

第10回北海道支部学術集会を2010年10月2日(土)に旭川市大雪クリスタルホールで開催し、150名の参加をいただきました。「医療安全の実現に向けて一さらなるステップアップを目指して」をテーマに掲げ、特別講演1題、ランチョンセミナー1題、一般演題(口演)30題の発表が行われました。

特別講演では自治医科大学医療安全対策部教授の長谷川剛先生をお迎えして「医療安全に資するマネジメントを考える」と題し、職員のモチベーションの維持、向上に関するお話から責任追及の概念まで切れ味鋭いご講演をいただきました。ランチョンセミナーでは、東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科医療経済学分野教授の川渕孝一先生に「医療制度改革とこれからの病院マネジメント」と題して、経済学者の視点から時にはユーモアを交えてご講演いただきました。

一般演題では医療安全、感染管理、地域連携、質の向上などに関する発表と討論が交わされました。皆様のご参加と、ご支援ならびにご協力に感謝申し上げます。開催報告とさせていただきます。

第10回東北連合会学術集会

代表世話人：公立置賜総合病院院長 新澤陽英

2010年10月2日(土)山形テルサにおいて、メインテーマに「キュアとケアの円滑な連携で医療に輝きを」として、295名の参加者を得て開催されました。

特別講演には、岡山県精神科医療センター院長で、福山市

民病院名誉院長の浮田實先生をお招きし、「新たな地域医療の構築と自院の役割」と題しご講演いただきました。

シンポジウムでは、基調講演に、山形市立病院済生館平川秀紀館長よりご講演いただき、シンポジストとして、東北各県より地域医療に携わる6名の先生方よりご講演いただいた後、座長の東北大学大学院教授伊藤恒敏先生により総合討論がなされ、最後に伊藤恒敏先生からの総括講演をいただきました。

ランチョンセミナーでは、岐阜市民病院院長 富田栄一先生からご講演をいただき、座長の山形大学理事・副学長 河田純男先生のもと討論が行われました。

一般講演では、57題、ポスター展示に14題の計71題が発表され、多くの方々の参加をいただき、各会場では活発な討論がなされ、有意義な学会となりました。

今回の東北連合会が、山形県内を始め東北各県の医療機関及び関係者の皆様のご指導ご支援のもとに成功裏に終了いたしましたことを深く感謝申し上げます。

第4回三重支部学術集会

学術集会会長：松阪市民病院総合企画室副室長 世古口 務



会場風景

2010年10月23日(土)、国立病院機構三重中央医療センター、研修棟会議室において第4回日本医療マネジメント学会三重支部学術集会が開催されました。今回の支部学術集会は「DPCをもっと身近に知

ろうーDPCを活用した医療マネジメント」をメインテーマに松阪市民病院、世古口 務先生を学術集会会長として開催されました。県内の主だった病院から107名の参加があり、一般演題の12題について活発な討論が行われました。一般演題は医療安全、クリティカルパス、地域連携、DPCなど多岐に及び各施設での取り組みや経験事例の報告に参加者全員が興味深く聴き入っていました。特別講演ではグローバルヘルスコンサルティング代表取締役社長の渡辺幸子氏が「DPCデータをマネジメントに生かす：医療の質と経営の質を両立させる方策とは？」の御講演がありました。DPCデータを用いたベンチマークによる病院マネジメントのスマートな評価などのお話に全員が真剣に聴講する様子が印象的でした。最後に本会が盛会のうちに終了できたことを、ご協力いただきました関係各位に深謝申し上げます。(文責：国立病院機構三重中央医療センター医療情報室長 田中滋己)